



第46回 第3回実行委員会 報告

- 開催日 2021年8月14日(土) 午後7時～8時
- 会場 世田谷区児童相談所(旧総合福祉センター) 1階の会議室A・B
- この日も緊急事態宣言下のため、約1時間の会議でした。ボーイスカウト、ひろば、僕んち、ちびくろ、吉田屋の5団体と事務局で話し合いがもたれました。

◆模擬店の出店について

- 例年は模擬店で参加をしているが、感染状況などを考えて手作り品などの販売で参加しようとした。売り上げを考えると模擬店の方が断然収益が上がるが、現状ではリスクが高すぎると判断した。
- 事務局内では「この状況で飲食を行うのはどうなのか?」という内容の議論も行われた。
- 今の状況でまつりを開催すること自体がリスクを伴う。模擬店だけがダメというのはどうなのか。雑居まつり全体として模擬店を含めてリスクを負うべきではないか。
- ここで話したことを9月の実行委員会で提案し、模擬店を行わない団体も含めて納得できるような話しをしていくのが重要。
- 模擬店を出店するにあたっての最低条件(感染対策)等を示したガイドラインの作成する必要がある。
- バザーなんかでも、商品を不特定多数の人が触ったりするのでリスクはある。
- 飲食の場合は、マスクを外すためにリスクが高くなる。
- 参加団体が少なくなったことで空きスペースが生まれるはずだから、そこに飲食のスペースを設けてはどうか。立ち食いスペースとして、白線か何かで間隔を置いて印をつけるなどすれば、密になるのを防げるのではないか。
- 机やイスを使用して、きちんとスペースを設けたほうが良い。
- 使用した後は毎回消毒をするなど、目に見える対策も重要。
- 模擬店が各広場に点在していると、食べる場所の確保や管理が難しくなる。フードコート(食べ物のひろば?)のように集中した方が良いのではないか。
- 模擬店が集まってしまうと、マスクを外す人が集中するので飛沫感染のリスクが高くなる。
- 各広場に食べ物を扱う店があると、あちこちにマスクを外している人が散在してしまう。
- 一か所に集まることで、食べ物目的以外の人たちが安心して買い物できる。

- 模擬店に関わらない団体も含めて、全体が納得できる対策案を考える必要がある。
- 事務局内では食器の問題も出ている。コロナ感染症の予防の観点から、使いまわしの食器は無理。ただ、ゴミになるプラスチック製のフードパックを使用するのは、雑居が積み重ねてきた考え方に反する。コストはかかるが、トウモロコシなど土に還る自然由来の原料を使用した器を検討してはどうか。
- コストが上がった部分は、販売価格に転嫁してお客さんに事情を説明すればよいのではないか。
- フードコートのようにすれば、入口のところでおわん屋のようにゴミにならないようしっかりとした食器を販売するのも可能ではないか。
- 最初から食べ物を持ち帰れるように、フードパックに詰めて販売すれば食べる場所の確保や消毒などを考える必要がない。
- 雑居では過去に持ち帰ったものを翌日に食べて食中毒を起こした事例がある。そうしたリスクを回避するために持ち帰らずにまつりの場で食べてもらうようにしている。
- 自分たちの団体は、自前の食器を使っている。洗う、すすぐ、熱湯消毒、拭く等、結構人手をかけているので、例年と同じ方法でも大丈夫だと思う。
- 例年は注文したお団子が大きなケースに入れられてくる。それを注文に応じて紙にくるみ、小売りしている。ケースの開け閉めなどで、ウィルス付着のリスクが高いと判断して模擬店を取り止めた。今日参加して「この状況でも模擬店やるんだあ！」と驚いている。自分たちの団体は、子どもがいるので慎重にならざるを得ない。
- 感染対策は、各店舗の責任において実施してもらうのが良いのではないか。
- 模擬店における感染対策を、最低限厳守してもらうためのガイドラインは必要。
- 子どもがいる団体は親元から子どもを離すことが難しいため、食べ物を扱う店が一か所に集まった場合、子どもも一日中そこにいることになるので非常にリスクを感じる。
- 模擬店が集まって食べる場所を見渡せる状況であれば、テーブルの空き具合を見ながら、各店舗が販売の調整を行える。(席が混んでいるときは、販売を休止するなど…)
- 模擬店を一か所に集めなくても、食べる場所を集中させたらどうか。
- 指定された場所以外での飲食を禁止した方が良い。
- お客の立場からすると、買った食べ物を持ち運んで指定された場所に行くのは、負担に感じるのではないか。
- 模擬店が一か所に集まると、メニューが被ってしまったり、値段や量などで差が出てしまったりして、偏りが生じるのではないか。
- 模擬店とバザーの両方をやっている団体は、2店舗分の人員を確保しなくてはならなくなってしまう。
- 世間では「黙食」が推奨されていて、飲食店や学校給食などは同じ方を向いて黙って食

べている。そんな状況で模擬店をやって楽しいのかなあ…？

- 自分のところは、広場の賄的な意味合いと集客で行っている。状況によっては模擬店でなくても良いと考えている。
- うちの団体はすでに解散していて、毎年このまつりのためだけに集まっている。そんなわけで、資源は乏しいし在庫を抱えるわけにもいかない。そう考えると模擬店しかない。
- 販売する食数を制限したら、感染リスクが減るのではないか？

※結論は出なかった。次週に持ち越しとなる。

◆今後の予定（9月18日以降は会議室の確保ができていないため、あくまでも予定です。）

8月21日（土）午後7時～8時 第4回実行委員会 模擬店について

9月 4日（土）午後7時～ 第5回実行委員会 模擬店について、出店場所の確定等

※いずれも世田谷区児童相談所（旧総合福祉センター）1階の会議室A・B

9月18日（土）午後7時～ 第6回実行委員会 準備状況の確認

10月 2日（土）午後7時～ 第7回実行委員会 最終 確認

10日（日） 雑居まつり 当日

11月 第8回実行委員会 総括、次年度に向けて

◆カンパの協力をお願いします！

昨年度、開催できなかったため、また、45周年記録誌の経費軽減のため、カンパをお願いします。

郵便貯金

記号：10000

番号：52682391

名前：雑居まつり実行委員会

他の金融機関からの振り込みの場合

店名：〇〇八（ゼロゼロハチ）

店番：008

預金種目：普通預金

口座番号：5268239

◆事務局連絡先

〒154-0021 世田谷区豪徳寺1-4-1-6 地域ボランティア活動センター内

[TEL 兼 FAX] 03-3428-4891

[連絡用携帯電話] 080-3310-3393

[URL] <http://www.zakkyo.jp/>